

みなみまちだを
みんなのまちへ

南町田拠点創出まちづくりプロジェクト における 景観形成の考え方ノート

2017年 4月 町田市

◇地区の特性

◆立地

- 市内随一の交通環境
 - ・国道16号線、国道246号線、東名高速道路などの広域幹線道路網が交差する位置にあり、広域的な交通アクセス性に優れている。
- 駅北口交通環境整備
 - ・国道16号町田立体事業により、地区の懸案であった慢性的な道路混雑の抜本的な改善が期待される。
 - ・国道16号町田立体事業にあわせて、北口駅前広場をはじめ、地下自転車駐車場、国道16号北側市街地から駅北口にアクセスできる地下歩行通路の整備が進んでいる。
- 鉄道駅至近において大規模な商業施設と都市公園が隣り合う立地特性
 - ・鉄道駅から直接アプローチできる位置に大規模な商業地が広がり、かつ、約7haの規模を有する都市公園がこれと隣接する市街地構造は、全国的にも稀なものである。
- 鶴間を中心として若年ファミリー層の流入
 - ・駅北側市街地を中心としてファミリー向けマンション開発が進んだことで、鶴間地区の人口は増加傾向が続いている。
- 南町田の持つ景観
 - ・現在の南町田は、地域の人々のオープンスペースである鶴間公園、サイクリングやウォーキングなどの活動が行われている境川、平日の朝から散歩やペットを連れた人々で日常的に地域の場として利用されている駅前商業施設など、豊かな地域資源と将来に継承していきたい景観が形成されている。

◆歴史

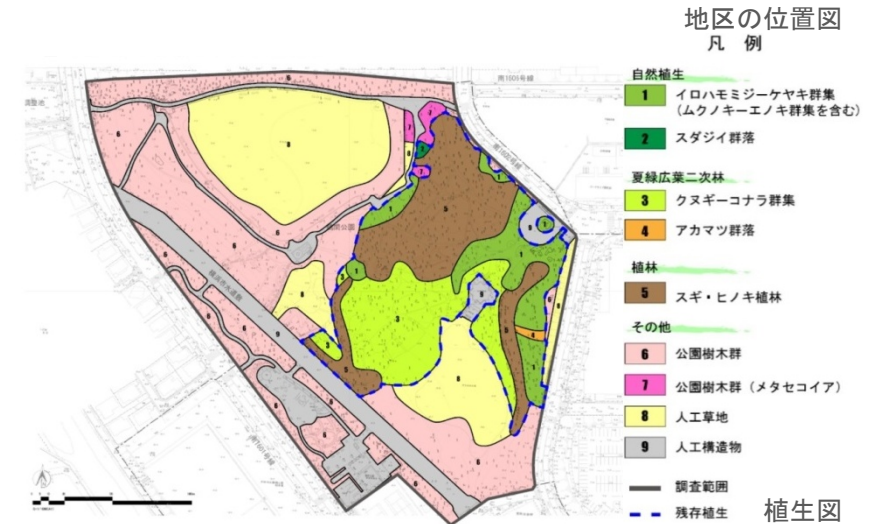
- 憩いの場として存在する水道みち
 - ・国内最初の近代水道である横浜水道の整備にあたり、相模原～横浜間の敷設物資(水道管など)をトラックで運んだ運搬路跡は、現在給水管が埋設された「水道みち」として残されている。その一部が通る鶴間公園内ではケヤキ並木がつくる木陰のもと、散歩や親子連れが遊ぶ姿が見られる。

◆地形

- 相模原台地に位置する、変化に富んだ地形
 - ・地区の西側は谷戸、中央は丘陵地帯といった土地条件を持っている。
 - ・境川に向かって低くなっていく河岸段丘の特徴を持ち、鶴間公園では比較的緩やかな傾斜とみどりを活かした空間づくりがみられる。

◆鶴間公園の植生

- 「豊かなみどり」が感じられる植生
 - ・自然植生や里山林など多様なみどりが混在しており、特にこの地域固有の自然植生については、イロハモミジ・ケヤキ群集、クヌギ・コナラ群集などが残されている。
 - ・密度の高い樹林が涼しい木陰をつくる一方、低木や林床の生育がしづらい状況になっている。



- 出来事
- 1887年
 - ・横浜水道完成
 - 1958年
 - ・町田市誕生
 - 1965年～1968年
 - ・国道246号線、東名高速横浜町田IC開設



- 出来事
- 1975年
 - ・南町田第一土地区画整理事業換地処分
 - 1976年
 - ・南町田駅 開設
 - 1979年
 - ・南町田第二土地区画整理事業換地処分
 - ・鶴間公園 開園



- 出来事
- 2000年
 - ・グランベリーモール 開業
 - 2002年
 - ・国道16号町田立体事業着手
 - 2016年
 - ・国道16号町田立体(本線部) 開通

◇南町田駅周辺地区拠点整備基本方針(2015年6月)

◆南町田駅周辺の課題解決・魅力向上のための実現方針

【目標】

住みたい、訪れたい、活動したい まちの実現 【新たな郊外の魅力発信】

【方針1】鶴間公園と商業地を中心として、にぎわいと交流を促進

【方針2】南町田駅周辺を結ぶ歩行者ネットワークの形成により、まちの利便性を向上

【方針3】地域の住み替えサイクルの実現に向けて、バリエーションのある住環境を創出



◇この方針を具現化するための景観の考え方を以下に示す。

○地区全体のコンセプト○

“みんなとつくる新しいパークライフ”

—— 地区全体が公園とひとつになる空間を目指します ——

- ・駅に近い環境と、公園・商業施設が融合することで生まれる「にぎわいと交流」。誰もがゆったり時間を過ごすことができ、心と身体が同時に健康になるような、そんな「日常生活+α」が楽しめる空間をつくりだします。
- ・住民と一緒にまちをつくり、育んでいくことによって地域から愛着を持たれ親しみがわく空間をつくりだすとともに、このプロジェクトが「みどりの発信源」となって、周辺の市街地にみどりを広げていきます。
- ・公園のみならず地区全体でみどりを感じられ、「訪れる人」「地元の人」「立ち寄る人」など多くの人がこの場所に集い新たな交流が生まれる空間をつくりだします。
- ・これらを実現するため、3つの方針「みどりに包まれたにぎわいと交流の景観づくり」「ゆったり時間を過ごせる景観づくり」「子育てがしやすく健康的に暮らすための景観づくり」をもとに、①融合ゾーン(地形広場周辺)、②鶴間公園、③駅前空間+商業施設(歩行者ネットワークのオープンスペース)、④沿道景観、⑤都市型(住み替え)住宅において景観の考え方を示していきます。

ゆったり時間を過ごせる景観づくり



施設の中にも、みどりやにぎわいの風景を臨め、その風景をお茶を飲みながら眺めて楽しむ。
#②鶴間公園



隣のお店で買ったお弁当をひろげて、子ども達と公園の木々の下で、毎週ピクニック。
#②鶴間公園



水道みちや広場の樹木の脇のベンチで、みどりの屋根が生み出す木陰の快適さ、木洩れ日の気持ちよさを感じながら日向ぼっこ。
#②鶴間公園



買い物の途中、ベンチやちょっとしたスペースで足を止めて一休み。安らげるようなみどりの中でスマホや掲示板からまちの情報をチェック。
#③駅前空間+商業施設

みどりに包まれたにぎわいと交流の景観づくり



駅に降り立ったときからみどりの気配を感じ、商業施設の広場では買い物を楽しんだ人がみどりの中でひと休み。
#③駅前空間+商業施設



お店や地元の催しが開かれ、多くの人々が楽しく集う場所や、子どもが遊ぶ様子を眺めながら、カフェで憩いのひと時。
#③駅前空間+商業施設

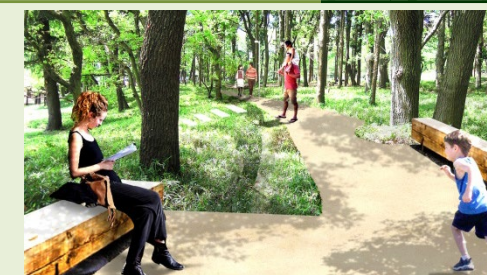


買い物や散歩、スポーツをした人などが、思いおもいにたたずみ、樹木のみどりとにぎやかな雰囲気を楽しむ。
#③駅前空間+商業施設



お祭りなどの地域の行事が公園で引き継がれていき、訪れた人々と地域の人に交流が生まれる。新たなコミュニティから新たなにぎわい。
#②鶴間公園

子育てがしやすく健康的に暮らすための景観づくり



公園樹木間の通路を歩き、ベンチで休んで森林浴。子どもは昆虫を見つけて思わず駆け出す。マイナスイオンをいっぱい受けてリフレッシュ。
#②鶴間公園



公園から境川に向かう緩やかな斜面地形とみどりを活かし、四季を堪能しながら散歩やジョギングを楽しむ健康づくり。
#②鶴間公園



家族や仲間が集まりテニスやフットサルなどのスポーツをみんなで楽しむ。子ども会つながりのお父さんお母さんチーム。
#②鶴間公園



子育て世代も、孫が遊びにくるおじいちゃんおばあちゃんも、一緒に身体を動かすことでみんな健康に。
#②鶴間公園

(※パースなどはイメージであり変更の可能性があります)

○地区全体のコンセプト○

“みんなとつくる新しいパークライフ”

—地区全体が公園とひとつになる空間を目指します—

駅の近くで公園と川、商業施設が隣り合う、他にはない地区の特徴を活かし「訪れる人」「地元の人」「立ち寄る人」が「日常生活+α」を一緒に楽しめる空間をつくりだします。

①融合ゾーン(地形広場周辺)

みどりに包まれながら新たな交流やにぎわいを生み出し、人々が長くとどまり、活動ができる場所をつくります。

②鶴間公園

「公園がひろがる」「つながる」「質が上がる」を軸に、心と身体が健康になり「日常生活+α」を楽しめる公園をつくります。

③駅前空間+商業施設(歩行者ネットワークのオープンスペース)

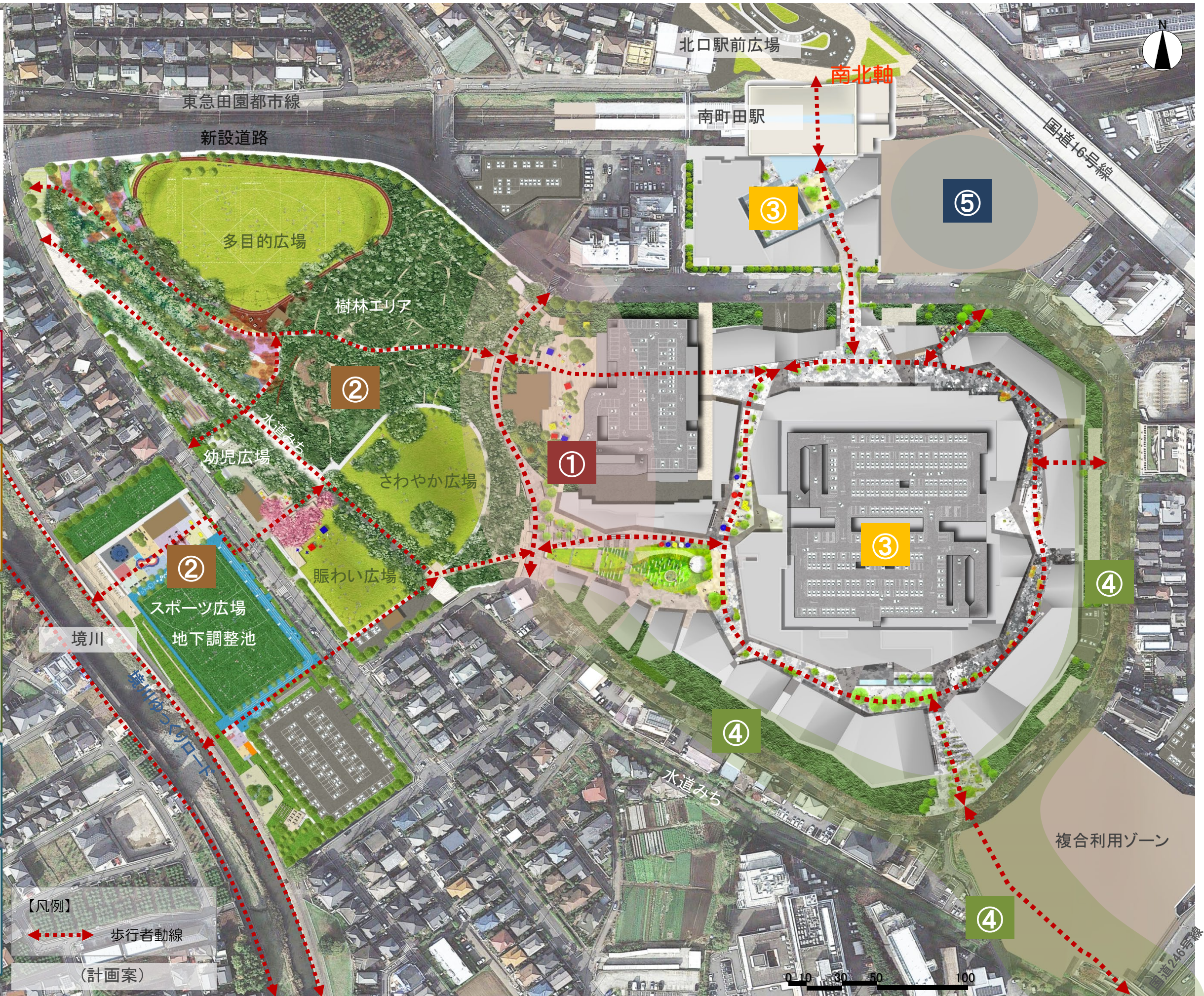
駅に降り立った瞬間からみど里を感じ、まちなのにぎわいを楽しみながら公園に引き込まれていくような商業空間をつくります。

④沿道景観

みどりが周辺に広がり、より魅力的な住宅地になる沿道景観をつくります。

⑤都市型住宅(住み替え)

“新たなパークライフ”をコンセプトとした、駅前や商業施設との景観的な統一性、周辺環境に対する圧迫感の低減、遠景に配慮した居住空間をつくります。



デザイン方針

みどりに包まれながら新たな交流やにぎわいが生まれ、人々が長くとどまり、活動ができる場所をつくる。

- 公園と商業施設の間に文化的活動拠点を置き、新たな交流や活動を促進し、南町田を象徴する空間をつくり出す。
- 境川に向けて続く緩やかな傾斜地形によって生まれる視覚的変化を活かすことにより、立体的な回遊を実現し、樹林のみどりにぎやかな雰囲気を楽しむことができる。

具体的な取り組み

回遊を生む三つの地形広場

既存の地形や広場を活かした造成により、立体的に回遊できる“地形広場”を計画し、「くつろぎたくなる空間」と「歩きたくなる空間」が一体となるようにする。

- ・丘の地形広場**
 既存シネコン棟から公園へとつながり、映画、アートなど様々な要素が顔を出す広場とし、「くつろぎたくなる空間」と「歩きたくなる空間」の活動を融合させ、市民や来訪者の活動を誘発させる場所とする。
 (主な構成要素: 鶴間の森テラス、文化的活動拠点)
- ・森の地形広場**
 さわやか広場と芝の地形広場をつなぐことにより、「くつろぎたくなる空間」と「歩きたくなる空間」を両立した場所とする。
 (主な構成要素: さわやか広場、既存の樹木、段々テラス)
- ・芝の地形広場**
 立体的な広場を設け、公園のみどりが商業施設側へ連続していく空間とする。
- ・文化的活動拠点**
 「みんなが集う森のテラス」をコンセプトに、多世代が交流できる地区の活動拠点とする。



空間デザインの考え方



イメージ



(※パースなどはイメージであり変更の可能性があります)

デザイン方針

公園が「ひろがる」「つながる」「質が上がる」を軸に、心と身体が健康になり「日常生活+α」が楽しめる公園をつくる。

・ひろがる
スポーツ広場を公園に編入することにより、公園面積がひろがるだけでなく、商業施設や境川とつなげることで活動領域がひろがり、公園を使う人々の輪もひろがる。

・つながる
境川に向けて続く緩やかな傾斜を活かし、融合ゾーンから境川に向けて視覚的变化をつけ、つながりを感じられる空間をつくることで回遊性を生み出す。

・質が上がる
新たな施設(カフェなど)の導入やみどりに囲まれた空間の健康的な活用などにより、公園の機能が向上し、そこで活動する利用者の日常生活の質が上がる。また、バリアフリー・夜間の安全性の向上などにより公園の質が上がる。

・既存樹木の保全・活用
伐採は最小限にとどめ、地域に固有の生態系に配慮し、樹林をこの地区本来の植性へゆるやかに更新していくことを目指す。また、健全な樹林を維持し、四季を通じて表情豊かな植栽計画を行う。

具体的な取り組み

・さわやか広場エリア
ピクニックなど日常的な利用やイベントを楽しむことができ、ゆったりと一日過ごせるエリアとする。
(主な構成要素:さわやか広場)

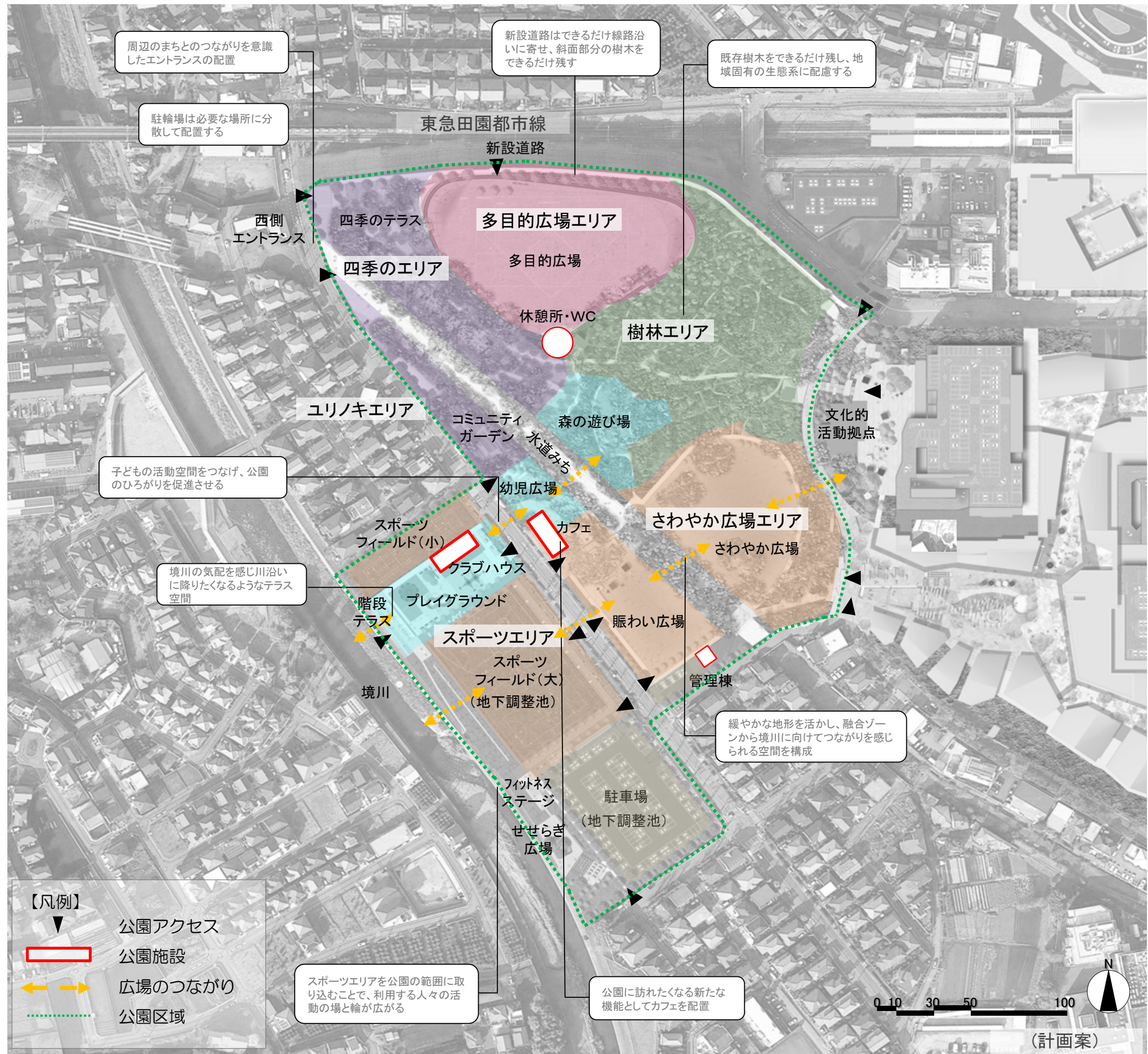
・スポーツエリア
スポーツと健康づくりの舞台とし、境川沿いのアクティビティも取り込めるエリアとする。
(主な構成要素:スポーツフィールド、プレイグラウンド、クラブハウス、フィットネスステージ、境川、階段テラス)

・ユリノキエリア
公園のにぎわいの中心エリアとし、ユリノキ通りを挟んだスポーツエリアと積極的につながりを持たせ、新たな鶴間公園のエンタランスとする。
(主な構成要素:賑わい広場、幼児広場、カフェ、水道みち)

・四季のエリア
公園の既存の桜を活かしながら、季節で表情が変わる樹木を新たに植えるとともに、四季を楽しめるエリアとする。
(主な構成要素:西側エンタランス、四季のテラス)

・多目的広場エリア
大きな芝生広場として、多世代がスポーツと健康づくりに取り組むエリアとする。
(主な構成要素:多目的広場)

・樹林エリア
既存樹木を保全しながら、みどりを体験できるエリアとする。
(主な構成要素:樹林エリア内の園路、森の遊び場)



各エリア イメージ



賑わい広場



スポーツフィールド



ユリノキエリア



四季のエリア



幼児広場



多目的広場

(※パースなどはイメージであり変更の可能性があります)



デザイン方針

駅に降り立った瞬間からみどりを感じ、まちのにぎわいを楽しみながら公園に引き込まれていく様な商業空間をつくる。

- ・24時間開放(室内除く)のオープンモールと、商業施設と一体的に計画される各広場では、駅から商業施設、鶴間公園まで歩行者ネットワークを形成し、誰にでも歩きやすいにぎわいと憩いの空間を提供する。
- ・駅前～商業施設の空間には、公園・境川を意識した在来種主体の植栽を積極的に採用する。商業施設内のネットワーク(街区間デッキ含む)では、公園からみどりがしみ出していくように花やみどりを配置していく。
- ・立体駐車場を中央に配置し、さらに建物の周囲を2層(一部3層)の店舗が囲むことで、できるだけ周辺地域から立体駐車場、および店舗のボリュームを感じさせない配置とする。

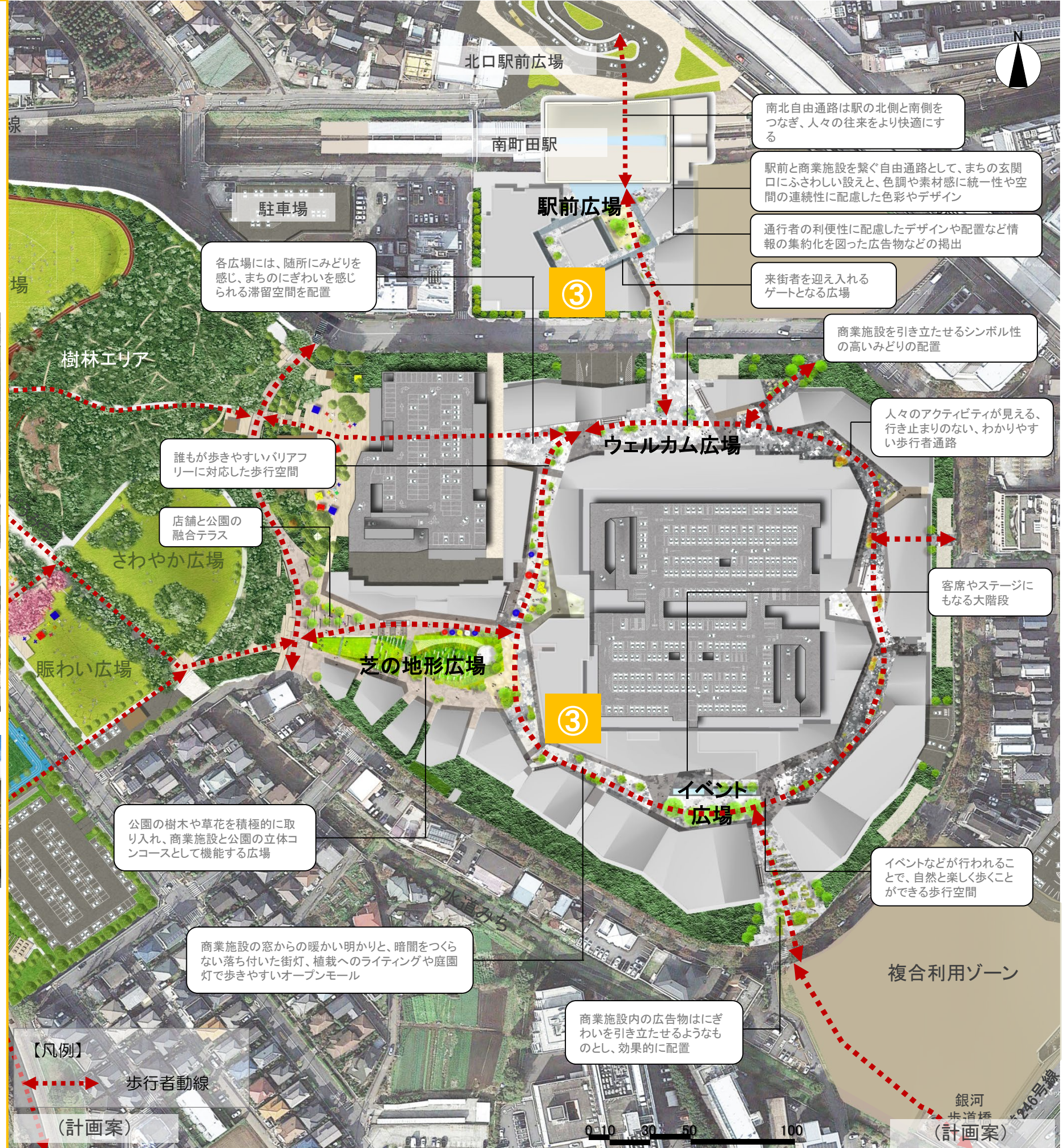


具体的な取り組み

- ・駅前広場
まちの玄関口としてふさわしい“みどり”を配置し、オープンスペースではイベントを催すことで“人”と“みどり”と“にぎわい”が混ざり合う広場を設える。
- ・ウェルカム広場
訪れた人々が、写真をとってSNSやインスタグラムにUPしたくなる、商業施設らしいにぎわいのある広場とする。
- ・イベント広場
子どもが遊び、多様なイベントに対応できるオープンスペースとして設え、建物に囲まれた広場空間に“みどり”を配置することで、“みどり”と“人のにぎわい”の融合を図る。
- ・芝の地形広場
商業施設と公園の立体コンコースとして機能する広場で、歩いて楽しい空間、店舗からにじみ出すにぎわい等、楽しい開放的な立体地形を形成する。



(※パースなどはイメージであり変更の可能性があります)



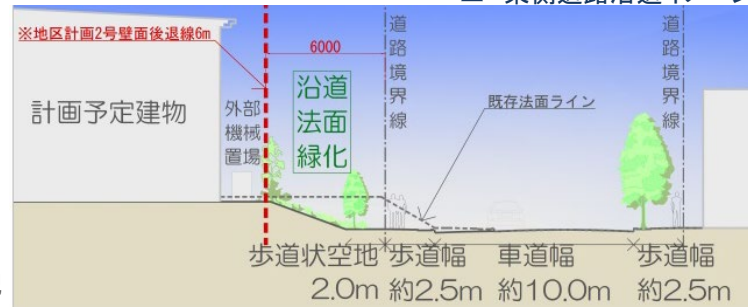
デザイン方針

公園のみどりを周辺に広げ、より魅力的な沿道景観をつくる。

- 沿道に積極的にみどりを配置し、周辺住宅地の景観と合わせて魅力的な沿道景観を形成する。
- 建物配置は、周辺住宅地との調和に配慮し、圧迫感を感じさせないものとする。



▲ 東側道路沿道イメージ



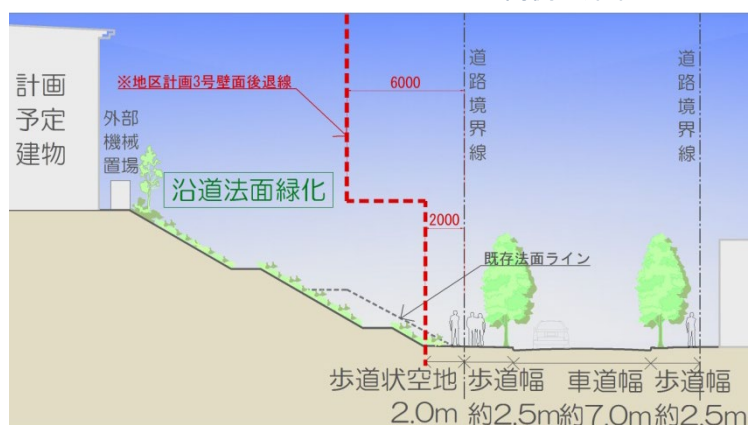
東側道路断面

具体的な取り組み

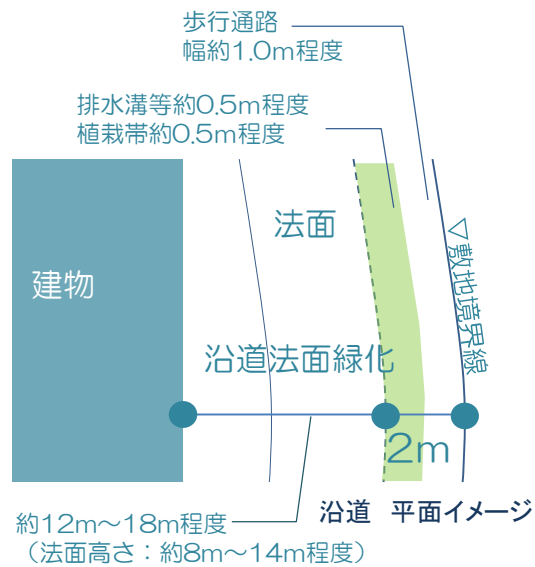
- 周辺住宅地との緩衝空間**
沿道は商業施設来街者と住宅地の緩衝空間となるよう、法面は在来種を用いた緑化を行うほか、道路境界線から外壁まで後退距離を確保し、周囲に配慮した建物配置とする。
- 建築物の分節化**
沿道に対して長大・単調な外壁が続かないよう建物を分節化し変化のある外装とする。複合利用ゾーン側入口についてはにぎわいの連続性を考慮した、開けた空間とする。
- 周辺設備機器の目隠し**
周辺設備機器は、フェンス・植栽等による目隠しをし、周辺景観に配慮する。



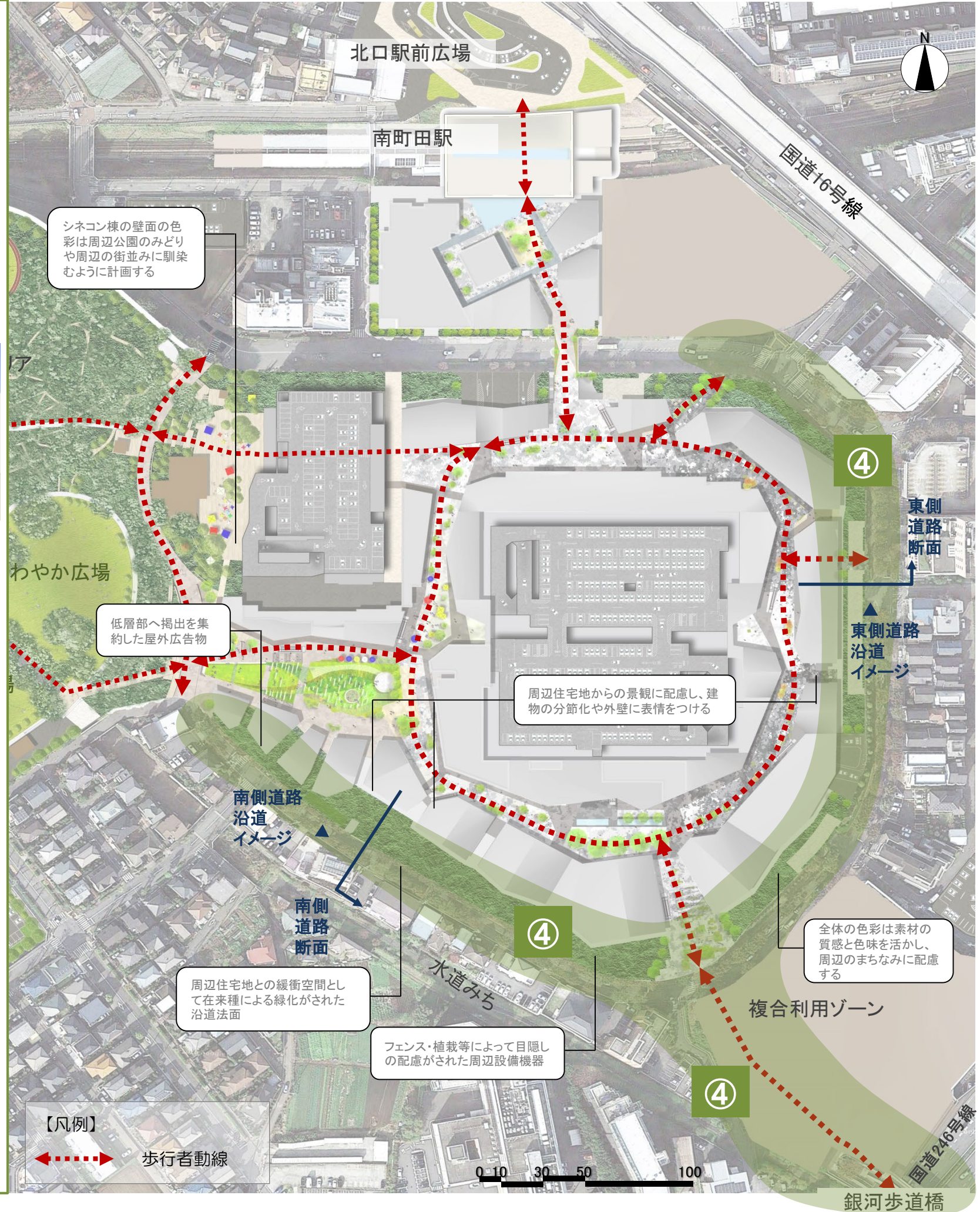
▲ 南側道路沿道イメージ



南側道路断面



(※パースは、「南町田駅周辺地区地区計画」の「A地区」における「建築物等の高さの最高限度120m」をもとに、高さ120m程度の住宅ボリュームを、合成したイメージ図であり、建物形状・建物高さなどは、実際の計画を表したものではありません。今後変更の可能性があります。)



デザイン方針

“新たなパークライフ”をコンセプトとした、駅前や商業施設との景観的な統一性、周辺環境に対する圧迫感の低減、遠景に配慮した居住空間をつくります。

- ・周辺環境への圧迫感の低減を図るとともに、遠景へ配慮しながら南町田のまちにふさわしいデザインとする。
- ・低層部では入居者にとっての身近な憩いの場としてだけでなく、駅前や商業施設との連続性、歩行者への圧迫感軽減に配慮した空間をつくる。

具体的な取り組み

- ・高層部は、壁面デザインに表情をつけるなどの工夫をし、まちへの圧迫感の低減や遠景からの見え方に配慮する。
- ・低層部は、周囲のまち並みと調和を図った色調や素材、植栽を用いたゆとりあるスペースを設けるなど、周囲の建物と一体的な空間となるよう配慮する。
- ・隣接する駅前の敷地や道路と後退位置を合わせるなど、一体性のある空間を創出する計画とする。また、駅前広場と続く低層階においては、基壇部を設けるなど、高層棟の圧迫感を低減し、ヒューマンスケールの空間づくりを行う。
- ・駐車場など付帯設備等の配置の工夫や、周囲からの見え方に配慮する。
- ・道路レベルの建物周囲は、明るさを保つ空間とし、夜間景観への配慮と防犯性を確保する。

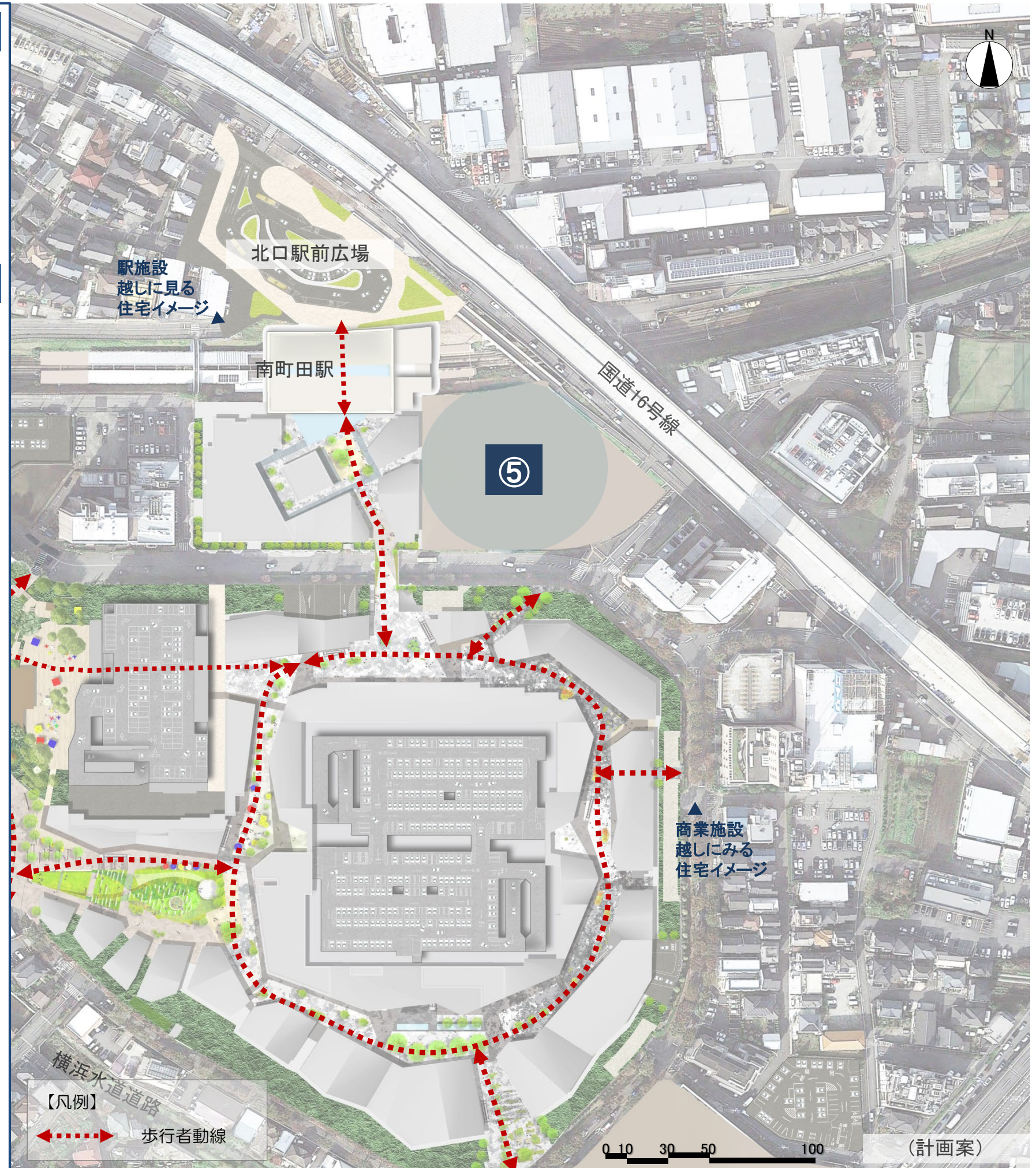


▲ 駅施設越しに見る住宅イメージ



▲ 商業施設越しに見る住宅イメージ

(※パースは、「南町田駅周辺地区地区計画」の「A地区」における「建築物等の高さの最高限度120m」をもとに、高さ120m程度の住宅ボリュームを、合成したイメージ図であり、建物形状・建物高さなどは、実際の計画を表したものではありません。今後変更の可能性があります。)



市民・事業者・市の協働

市民・事業者・市が協働して活動・仕掛け

- 市民が公園を積極的に活用し、地域の行事の継続や新しい活動が生まれる仕掛けをつくる。
- 市と事業者が協働して活動の場をつくることで、地区全体での活動やアクティビティを活性化させる。



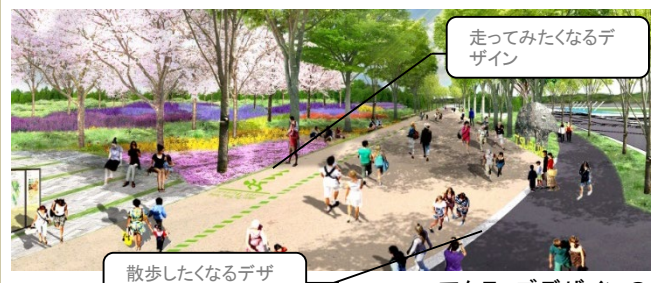
市民活動イメージ

アクティブデザイン

「行ってみたいくなる」「使ってみたくなる」仕掛けを景観デザインに取り入れる



魅せるデザイン

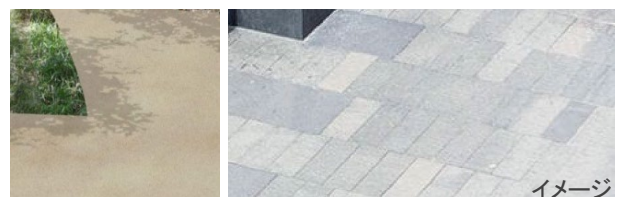


アクティブデザインのイメージ

舗装計画

色調や雰囲気を揃えた舗装計画

- 材料や色調を揃えて地区全体で歩行者空間に一体性をもたせる。
- 景観の質を維持し続けられる素材選定と管理を行う。



イメージ

色彩計画

みどりも建物もいきいきとする色と素材の使い方

- まちを囲む色調は自然のみどり。その中で映える色を効果的に用い、人のアクティビティを創出する。※1

- 南町田駅周辺地区としての特色を出すために、色味に統一的なコンセプトを持たせる。

- 素材の質感と色味を活かし、まち並みの雰囲気を演出する。※2

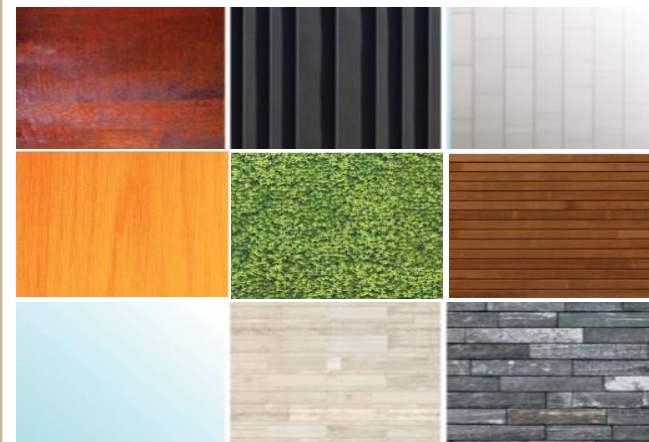
- 店舗が引き立つような素材・色彩を用いてにぎわいを演出する。

- 高層部分の色彩は空と調和したものにし、遠景からの眺望に配慮する。

- バナーやフラッグなどの動くものにぎやかな色を用いてまち並みをいきいきとさせる。



※1: 色彩対比の考え方
(出典:「むらの色まちな色—農村環境の色彩計画」
編・著/多摩美術大学環境
色彩研究会
監修/一般社団法人 地域
環境資源センター)



※2: 建物外壁材料(素材感)のイメージ

照明計画

安全で落ち付いた照明計画

- 人が歩くところを中心に、安全性を考慮し、適切な明るさの照明を確保する。
- 周辺の建築物への配慮と夜間景観の演出を意識した配置とする。
- 公園では紫外線の出ない照明機器の選定、点灯時間や点灯数などの調整により、生物へ配慮する。
- 限定的なエリアでの夜間景観演出・樹木のライトアップやエリア照明を配置する。
- LED照明の採用により長寿命・眩しさを抑え、環境に配慮する。

サイン計画・屋外広告物

わかりやすい、見やすいサイン計画

- 色数や大きさをそろえた地区全体で統一感のあるデザインとする。
- 必要な情報を分かりやすく発信できるデザインとする。

●公共サイン

- 駅前地図のように、地区全体にかかる案内表示のデザインや情報の掲示を統一し、回遊性の向上を図る。
- 歴史などの地域の情報掲示や舗装面のピクトデザインなどの工夫によって公園を訪れた人の活動を誘発する。

●商業サイン

- 施設用途を示すサインはピクトグラムデザインを統一し、来街者の円滑な誘導を促す。

周辺の住宅に配慮した屋外広告物

- 歩行者ネットワークを意識し、にぎわいの連続性をつなげるデザインとする。
- 歩行者動線、目線を意識した効果的な配置を行う。
- 屋上広告物などはできるだけ避け、デジタルサイネージは、低層部・敷地内側への集約など、沿道景観へ配慮した掲出とする。



サインイメージ



照明計画イメージ

植栽計画

自然のみどりとにぎわいのみどり

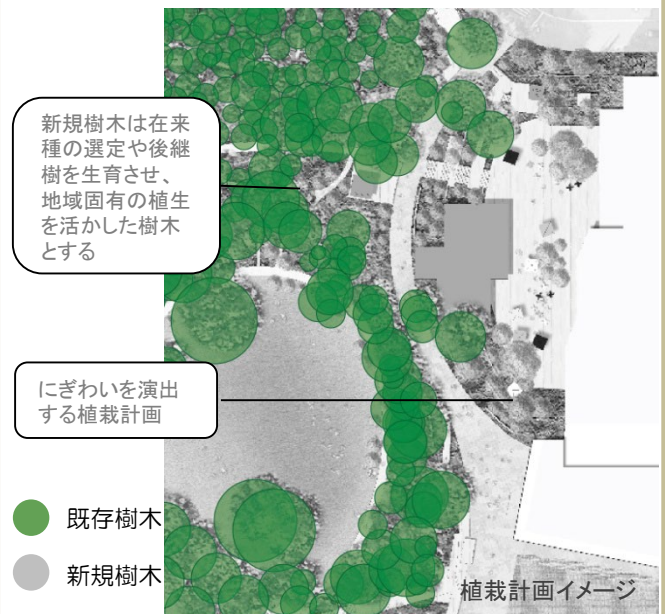
- みどりによって地区全体の一体的なつながりを生みながらも、場所ごとの使い方に機能を持たせた、植栽計画とする。

●自然のみどり(鶴間公園)

- 公園が「みどりの発信源」になって南町田駅周辺地区全体や周辺市街地にみどりを波及させていく。
- もともとの植生と、もともとの地形を活かし、四季を通じて表情豊かな公園のみどりを演出する。
- 芝生や木陰のあるテラスやベンチなど、利用者がそれぞれのくつろぎ方を楽しめる休憩場所を演出する。
- 公園にいる虫などの生物や草木について、子どもからお年寄りまで、みどりの管理や自然教室の活動を行うなど、みどりを活用した取り組みを実践する。

●にぎわいのみどり(商業施設)

- 店先やベンチわきに鮮やかな草花を設けるなど利用者を迎え入れる様な植栽計画とする。
- 季節のイベントに合わせたみどりの装飾による季節感を演出する。
- にぎわい空間の中にも自然のみどりをポイント的に取り入れ、空間の繋がりを創出する。
- 在来種を用いた植栽によって、沿道環境へ配慮し、公園とのみどりの連続性を確保する。



新規樹木は在来種の選定や後継樹を生育させ、地域固有の植生を活かした樹木とする

にぎわいを演出する植栽計画

- 既存樹木
- 新規樹木

植栽計画イメージ



にぎわいを演出する植栽計画

さわやか広場 段々テラス 新規歩道 商業施設

植栽計画イメージ